# 「五輪の夢」選手の思い

## モスクワ「幻の代表」山下さん

### 「北京」日本勢にエール

ロサンゼルス五輪の柔道無差別金メダリストで、東海大教授の山下泰裕さん(51)が、武蔵野市の同大「望星学塾」（西久保1）でこのほど、「オリンピック競技の輝きと現実」のテーマで講演した。山下さんは日本がボイコットした1980年モスクワ五輪の「幻の代表団」として先月、当時の柔道日本選手6人で訪露した話を披露。「選手の思いを奪わないで」と訴えた。（大垣裕）

「柔道を通した人間教育を目指したい」と語る山下さん（武蔵野市の東海大望星学塾で）

山下さんは77年に史上最年少の19歳で全日本選手権を制した。ソ連のアフガニスタン侵攻の報復に日本が五輪不参加を決め、「世界最強」と呼ばれていた山下さんは涙をのんだ。84年のロス五輪では右足肉離れを押して悲願を果たし、国民栄誉賞を受賞した。85年に全日本9連覇で引退するまで203連勝を達成した。

「オリンピックは小学生からの夢」。山下さんは、五輪ボイコットに反対する当時の集会で切々と語った。以後、取材を受けるたび、「モスクワは過去のこと」と繰り返し答えてきた。それは今も変わらないが、最近、幻の代表選手の証言をまとめた本を読み、涙が止まらなかったという。

講演では、「本能的に深い悲しみを忘れ去ろうとしていたのが本当だったのかと思い直した」と語った。北京五輪ではチベットの人権問題が影を落とすが、「選手の思いを奪ってはならない」と強調した。

5月のモスクワ訪問では、道場で柔道を教え、柔道家でもあるプーチン首相の夕食会に招かれた。首相から「北京では何個メダルを取る予定ですか」と切り出され、「4個は取りたい」と答えた。講演ではそんな秘話も飛び出した。

現在はNPO法人「柔道教育ソリダリティー」の理事長として、柔道の普及を通して日本の良さを伝える国際交流活動を進めている山下さん。「勝ち負けへのこだわりよりも、柔道を通した人間教育を目指したい」とも語った。

講演後、山下さんはインタビューに応じ、北京五輪に出場する日本選手たちに向けて、「失敗を恐れず、夢に向かって挑戦してほしい。一個人ではなく、日本代表としての誇りを持ち続けてほしい」とエールを送った。また、都が名乗りを上げている2016年五輪招致について、「世界の人に日本の姿を知ってもらうためにも、大きな意味がある」と期待を寄せた。

望星学塾は、東海大創立者で国際柔道連盟の会長を務めた松前重義氏が開いた私塾が始まり。現在は学校法人東海大学の機関として講演会などを開いている。